あけましておめでとうございます。2000年度の出せなかった分、回覧券はさんであります。おくれてすいません。（8月にかいたので）　2001.1.1　たかはし

今の「うらばんだいあそび」をお届けします。夜中に原稿かいていて、聞こえるのはカエルの声。そして冷蔵庫のモーター音。

うらばんだいあそび

第21号　2000.12.31

"いろうろしていた部屋からのながめ"

うらばんだい借家事情

3年ちょっと暮らした"くるみの森"の家を出ることになりました。
というのも、その家は、私が"くるみの森別荘地"のアルバイト（そうじや夏の草刈り）をしていて、使わせてもらっていたので、そのバイトを辞めて、ガイドを仕事にしていこう、となった以上は、次の住居を探さなくてはなりません。

*

今年の3月、4月、5月と家探しをしました。
まず、誰彼かまわず、「家、探してるんです」と言う。私に家建てる経済力はないので、借家。しかも低家賃。そして裏磐梯のなかで、という条件つき。
あちこちで そう言ってると、情報も集まってくるもので、

てんなわけで、2000年は2度引越しをしました。平家→3階建の屋根裏へ本をいっぱい持ってくのは重労働

「桧原なら 5,000円ものがある」
「剣ヶ峯で1軒あいてるって」
「○○あね（名まえ）のとこ、借りじゃないか〜」
「今、あそこは じいちゃん亡くなって 誰も 住んでないってよ」
「猫魔ホテルの従業員寮はどうなの？」
「○○じいちゃんとこは、今 つかってないんじゃない？」
「村営住宅はあいてないの？」
「秋にあくとこあるってよ〜」　　てな感じで、いつのまにか情報通。
そして、情報が入ると 物件を見に行ったり、家主にあたる人に電話したり、会いに行ったりした。1時間くらい、家主のじいちゃんと話してて、「ありゃ、こりゃだめってことかいな〜」ということもあったり、電話の段階で断わられたり、"こいつぁ〜、何者？"と怪しまれたり、家賃の点で折りあえなかったり。

*

裏磐梯は観光業で成りたっているから、民宿、ペンション、ホテルは林立している。個人経営では、宿と住居が同じだし、大きいホテルはその従業員寮があるので、貸家というのはまずない。学校も中学までなので、学生に貸すアパート的なものもない。夏だけ貸りる別荘ならないこともないけど、通年暮らすとなると、冬は多雪・寒冷な土地だけに、水道凍結対策や暖房にお金がかかる。手を打ったって、寒〜くなれば凍ってしまう時もある。
私が訪ねた大家さんのなかにも、「貸したんに寒いと言われて、大変だからもう貸さないんだ」という人がいた。「家賃は下げられない」と言った人も、設備にかかることを見こしての話だったし。

*

×印続きのある日、裏磐梯全域を垂涎配達している黒沢さんに聞いてみた。
「あそこと あそこと、…と、…と、あたってみたんですけど、だめだったんですよー」
「あそこは どうだ」
「あ〜、それも だめでしたねえ」
「んじゃあ、ないな」
「あ〜、やっぱりないですかあ〜」
黒沢さんと互格に話せるほどの ネタを押さえていたわけでしたが、うーん、ダメだし。